

第 25 回 春秋戦国時代

1 春秋時代（前 770～前 403 年）

- ・氏族関係に支えられた封建制は、次第に緩み始めていった。
- ・前 8 世紀、王室の内紛と西方から異民族の犬戎が侵入したことにより、周は東方の（ ）に都を移し、（ ）となった（周の東遷）。
- ・中国では周辺民族を総称して夷狄と呼び、（ ）によって蔑視した。

- ・東周の権力は非常に弱く、封建制で各地に領土をもらっていた諸侯は王の命令を全く聞かなくなり、勝手に諸侯同士で争うようになった。
→これ以後の時代を（ ）という。
→有力諸侯は、「 」のスローガンを唱えて、諸侯の盟主となった。
※盟主を（ ）といい、代表的な 5 人の覇者を（ ）という。
- ・このころから、文字を記録するために木簡や竹簡の使用が普及し始めた。

春秋の五覇 {
（ ）の（ ）
（ ）の（ ）
（ ）の 莊王
呉 の 闔閭（父）or 夫差（子）
越 の 勾践



春秋時代については、宮城谷昌光の小説がおもしろい。『重耳』は晋の文公の一生を描いた小説である。

春秋時代を舞台にした小説

※誰が春秋の五覇になるかは諸説あり、秦の穆公、宋の襄公を入れる場合もある。

呉と越

- ・春秋時代の諸侯のうち、領土が隣り合っている呉と越は、仲が悪くて有名だった。
→そこから、普段仲の悪い人が協力しあうことを「 」という。
- ・また呉と越の王は、負けた恨みを忘れないように、薪を枕にして寝たり熊の苦い胆（肝臓）をなめたりして、相手に復讐しようと苦労を重ねた。
→そこから、目的のために苦労に耐えて努力することを「 」という。

<春秋時代の国々>

<戦国時代の国々>

2 戦国時代（前 403～前 221 年）

- ・前 403 年、春秋時代の大国であった晋が、趙・魏・韓の 3 国に分裂してしまった。
→これ以降の乱世を（ ）と呼んでいる。
- ・春秋時代には周の王はまだ尊敬されていたが、戦国時代に入ると完全に無視されるようになり、諸侯は勝手に王を名乗るようになった。

- ・この時代に（ ）、（ ）、（ ）、（ ）、（ ）、（ ）、（ ）の 7 国が栄え、（ ）と呼ばれて、中国統一を目指し争った。

- ・北の趙は遊牧騎馬民族の戦術を取り入れるとともに、長城を建設した。
- ・山東半島の斉は、臨淄を都に塩業で栄えた。
- ・このころ儒家により中国最古の詩集である『 』が編纂された。
- ・また南の楚では、（ ）らの詩を集めた（ ）が編纂された。

- ・西方の秦は、牧畜地域を抑えるとともに、孝公の時代に法家の（ ）を宰相に起用して改革を行ったことで、富国強兵に成功して強国となった。



商鞅
諸子百家のところで
でも出てきます。

3 戦国時代の経済活動

- ・春秋時代に登場した（ ）が、戦国時代には普及し始めた。
- ・また牛に犁を引かせる（ ）という耕作方法も編み出された。
→農業生産は飛躍的に拡大し、「戸」と呼ばれる家族単位での農業も行われた。
- ・鉄器によって森林伐採が進み農地が増加するにつれ、華北の乾燥化が進んだ。

- ・生産力の拡大と各国の富国強兵策によって、商工業が非常に活発となった。
→商売を行うために、貨幣が大量に必要となった。
→それまでの貝貨にかわって、（ ）の流通が始まった。



牛耕を描いた切手

鉄製の犁を牛に引っ張らせて耕す方法。楽に深く掘れるので、広い土地を有効に耕すことができた。ヨーロッパで導入されるのは、ずいぶん後である。



貝貨

「ばいか」と読む。子安貝の貝殻や、その形を骨や石で模したものを使った。お金関係の漢字に「貝」がついているのは、このためである。

- ・主な青銅貨幣には、斉、燕などの（ ）、趙、魏、韓などの（ ）、秦などの（ ）、楚の（ ）がある。



刀銭と布銭

刀銭は見たとおり刀（剃刀？）を模したもので、布銭は農具を模したものである。



円銭（環銭）

自分たちが一般にお金と聞いて想像するのが、この円銭である。後に秦が中国を統一したため、全土で使用された。



蟻鼻銭

形が蟻の鼻に似ているため、こう呼ばれた。おそらく貝貨を真似して作ったのだろう。